

よこのしもかいといせき
横野下開戸遺跡

秦野市No.148

- 調査期間** 2017年5月16日～2017年12月31日
- 所在地** 秦野市菩提
- 時代** 近世、奈良・平安、弥生、縄文、旧石器
- 調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 遺跡位置** 小田急小田原線渋沢駅の北方約3.2kmに位置し、秦野盆地扇状地の北西扇頂部ほぼ中央に立地する。



主な調査成果

今回の調査では、近世、奈良・平安時代、弥生時代、縄文時代、旧石器時代の遺構や遺物が発見されました。近世の遺構は、1707年に富士山が噴火した際に降り積もった火山灰を廃棄するために掘られた溝や土坑が調査区のほぼ全域で検出されました。奈良・平安時代の遺構は、直径1m前後の円形を呈する土坑が発見されました。用途は特定できませんが、畑作に関連する遺構と思われます。弥生時代の遺構は、落とし穴と考えられる長軸約2m、深さ1.3mほどの土坑が2基発見されました。縄文時代の遺構は、蒸し焼きなどの調理をした施設と考えられる集石や落とし穴と考えられる土坑が発見されました。土坑は長径1.0～1.7mで、平面形態は長方形または隅丸長方形を呈しており、地震などによる層滑りによって上部と底部がずれているものが認められました。遺物は中期初頭の五領ヶ台式土器が主体で、石鏃・磨石等の石器も出土しています。旧石器時代では、L1H層から黒曜石及び凝灰岩の剥片が10点ほど出土しました。



縄文時代の集石



弥生時代の落とし穴